

平成 29 年度新潟大学 COC+社会人学び直し WG 高度実践看護師等育成事業

地域看護 CNS からのコンサルテーションによる事例検討会(第2回) 「事例から保健師固有の支援技術を学ぼう！」 を開催しました

社会人学び直し WG 「高度実践看護師等育成事業」では、社会人の学び直しの機会を提供し、新潟県における高度実践看護師等の地域包括ケアを担う保健医療人材の育成と定着化を図るとともに、雇用の創出や拡大を目的に、高度実践看護師等の啓発普及、人材育成プログラムの検討・開発等を行っています。今回、新任期にある保健師を対象に、実践事例の検討と地域看護 CNS からのコンサルテーションにより、保健師の実践能力の向上を図るとともに、地域看護 CNS の実践活動および専門的能力活用の場とすることを目的として、第 2 回事例検討会を開催しました。

1. 目的 主に新任期にある保健師を対象に、参加者同士の対話や地域看護 CNS からのコンサルテーションを通して実践能力の向上を図る。また、地域看護 CNS の活動について啓発の機会とする。
2. 日時 平成 30 年 1 月 20 日(土) 10 時 00 分~12 時 30 分
3. 場所 新潟大学医学部保健学科 自習室

4. 内容

- ・新任期にある保健師が、地域保健活動の実践において困難を生じている事例を素材にして、事例検討会を実施する。
- ・事例提供者の事例を素材とし、参加者は事例検討を通して、参加者同士の対話や地域看護 CNS のコンサルテーションから、自らの支援内容を振り返り、経験知から保健師固有の支援技術を学ぶ。

5. 講師

事例提供者：五泉市役所こども課 保健師 小林基子 氏

助言者：新潟県総務管理部人事課 主任(保健師) 室岡真樹 氏 (地域看護 CNS)

ファシリテーター：新潟大学大学院保健学研究科 教授 小林恵子

6. 実施体制

主催：新潟大学大学院保健学研究科 (担当者 小林恵子 齋藤智子 成田太一 堀田かおり)

共催：新潟県 公益社団法人新潟県看護協会 全国保健師長会新潟県支部 新潟県職員保健師会

後援：全国保健師長会新潟市支部

7. 参加者

参加者：27 名



8. 実施概要

発達障害のある子どもに対して育てにくさを感じ、家族からの育児への協力が得られにくいため、育児に不安や負担を生じている母親への支援について、ファシリテーターの進行のもと参加者同士の対話と地域看護 CNS のコンサルテーションを得ながら検討しました。

今回の検討では、母親の抱えている困難・ニーズは何かを検討する中で、母親と児だけでなく、家族の関係性や各家族員の抱える課題にも視点を広げてニーズを考え、家族の調整や他の家族員への支援の必要性とその方法について検討しました。また、生じている課題や解決の方向性を検討する際の枠組みとして「サインズ・オブ・セイフティ」が紹介され、対象者の抱える問題や強みを整理するとともに、その枠組みを活用し、対象者と一緒に思いや課題を共有し解決策を検討していく方法も提案されました。

対象となる親子にどう関わるかだけでなく、家族全体へと支援対象を広げて考えることで家族の抱える課題が整理され、問題解決の糸口が見えてくること、母子に対する支援を入り口としながらも、保健師は“家族（世帯）を対象”とする視点を持って関わることの重要性を確認しました。



9. 参加者アンケート結果（一部抜粋）

1) 参加者の所属

所属	人数（名）
新潟県	5
新潟市	6
市町村（新潟市を除く）	8
医療機関	1
学部学生	3
新潟大学教員	4
計	27

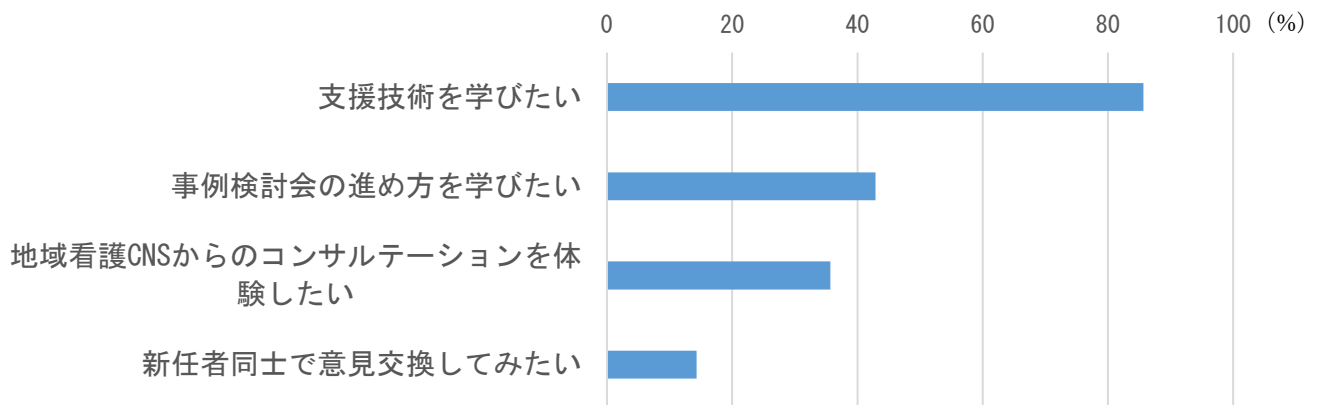
*検討メンバー

14名（保健師経験年数：平均2.9年）

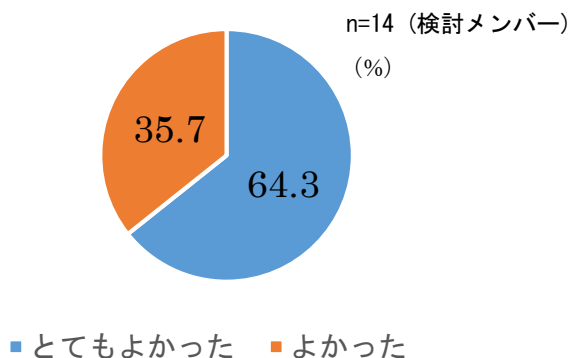


n=14 (検討メンバー)

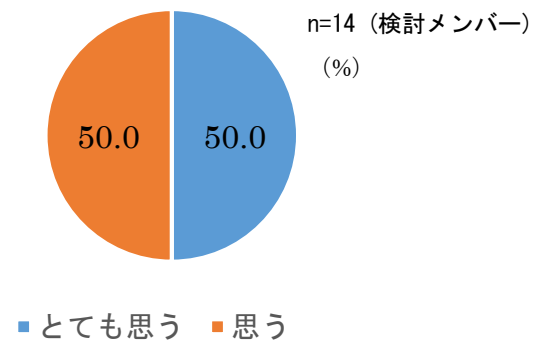
2) 参加動機 (複数回答)



3) 参加しての感想



4) 今後も事例検討会に参加してみたいと思うか



5) 参加しての学び (自由記載 抜粋)

<検討メンバー>

○自身の実践の振り返りができた

- ・無意識な傾向が支援に現れているかもしれないと感じました。必要な支援を避けたりせず積極的に関われるようになるためにも家族的視点を普段から取り入れるよう意識しようと思います。
- ・対象者から他の家族へ視点を広げて考えることができたので良かったです。同時に、これは今難しいのではないかな等、考え込んでしまい積極的に発言できなかったのが反省点です。

○支援技術や方法について学べた

- ・様々な視点で検討ができて良かったですし、具体的に支援方法について考える機会になって参考になりました。
- ・市町村によって支援方針の立て方や地域への入り方に違いがあり、視点の幅が広がりました。
- ・支援対象が母子から家族全体に広げられ、様々な視点からアセスメントすることができ良かったです。真のニーズは何なのかをアセスメントする大切さに改めて気付くことができました。
- ・対象者だけでなく、家族にも目を向け、対象者、家族のニーズを明確にして支援を考えていくことの大切さを感じました。また、課題だけでなくうまくいっているところ、今後のリスクも含めて支援を考える点など、自分の事例にも活かしていきたいです。
- ・対象者が望んでいること、支援を必要としていることを明確にしたうえで、支援を行うことで、対象者との信頼関係を築くことにつながり、さらにより良い支援を行うことにつながるのだと感

しました。

- ・深く情報収集をして、対象を理解することの大切さを改めて感じました。また、対象との関係ができて具体的な情報が増えると、どこに焦点を当てたら良いのか分からなくなったり、視野が狭くなりがちですが、事例検討などで他の人からアドバイスをもらったり、情報を俯瞰して視野を広げることで真のニーズや問題が見えてくると学びました。

<オブザーバー>

- ・家族調整における問題やリスクの共有方法を学ぶことができました。
- ・問題点や支援目標の確認について、検討の展開を事例提供者の力を大切にしながら進めているところ、重要と思われるところから支援策を具体化していくところが参考になりました。
- ・自分だったらどのように支援するか、という視点で考えながら、参加者の考えを聞いて学ぶことができ良かったです。
- ・保健師が地域でどのように活動しているか、きめ細かい情報収集をしていることがよくわかりました。事例検討中の参加者の様子・発言から、経験数年の方々でしたが非常に頼もしいと感じました。

6) 日々の活動の中で、地域看護 CNS からコンサルテーションを受けたいと思う内容

<検討メンバー>

- ・家族と支援者のニーズが一致しないケースへの助言
- ・発達障がい児や発達の気になる児を持つ母への関わり方への助言
- ・精神疾患を持つ事例とその家族への支援についての助言
- ・所属での事例検討における助言
- ・事業運営について
- ・地区のアセスメントの様式や、地区活動計画の用紙、個別支援の記録票など、記録様式改善への助言

<オブザーバー>

- ・新採用保健師研修会で、対象者、プリセプターや企画者の力量形成を図る上での参画

7) 全体を通しての意見・感想（抜粋）

- ・CNS や新任期 PHN など普段関わり、意見交換することが少ない方々の考えが聞けて良かったです。
- ・事例提供したいと強く思いました。
- ・事例検討会を通して、自分の事例に対する考え方やクセを見直すことができ、多くの方の視点で様々なことを切り口に事例を見ることができるところだと感じました。所属する市でも定期的に検討会を行っているので、自分も積極的に参加し、事例提供もしていきたいです。
- ・1つのケースについて皆さんで考えることで、支援方針を考えていくうえでのプロセスを学ぶことができました。
- ・今日の学びを活かして、支援能力を高められるよう頑張ります。
- ・事例検討会に参加してみて、「また来週からがんばろう！」という気持ちになりました。

事例検討会を終えて

保健師は、様々な年代の健康問題・課題を抱える対象者と出会い、日々の解決に向け活動しています。問題を抱えている対象者という前提がある分、ついつい「問題」「できていない」に目が向いてしまい、その解決を図ることが対象者の健康課題解決につながると思ってしまう傾向はないでしょうか。今回の検討会では、そういう傾向に気づきつつ、できていること、その人の“強み”に目を向け、健康課題解決のための支援を展開することが学べたと思います。

ちょっと視点を変えることで行き詰った支援に新たな方向性を見出すことができ、動かなかった支援が展開し、保健師の自信にもつながります。経験が少ない新任期だからこそ、職場内外で事例検討の機会に積極的に事例提供し、様々な経験値を吸収してほしいですし、成功も失敗も積み重ねながら活動のおもしろさを感じてほしいと思います。これからも地域看護 CNS として、保健師が活動のおもしろさを感じ、成長できるお手伝いをしたいと考えています。

地域看護 CNS 室岡 真樹

今回、就業5年以内（特に2年目、3年目）を中心に、多くの新任期の保健師さんから参加していただき、本当にありがとうございました。

行政で働く保健師は新任期であっても、背景が複雑で解決困難な問題を抱える事例への対応が求められ、家族や地域を含めたアプローチが必要となります。解決困難な問題を抱える事例ほど、ニーズを把握することが難しく、新任期保健師は支援方針に悩むことも多くあります。また、知識や技術・経験が十分ではないなかで、自らの支援に自信を持ってないこともあります。

今回の事例検討会では、育児不安や負担感が強く家族関係の調整が必要な母子の事例について事例提供がありました。本人や家族のおかれている状況をひとつずつ紐解きながら真のニーズは何かを考え、支援方法を検討していく過程をとおし、家族全体を支援対象とする保健師の視点や関係機関を含めた支援チームとしての働きかけの重要性について理解を深めるとともに、これまでの関わりのよいところや強みも多く発見でき、保健師としての自信につながる検討会になったのではないかと思います。

参加者から継続開催を望む声をたくさんいただきました。新任期の保健師にとって、参加メンバーからの意見や地域看護 CNS からのコンサルテーションを受けながら、丁寧に時間をかけて、家族のニーズや支援目標、具体的方法について考えることのできる貴重な時間であったと実感しています。このような事例検討の機会をとおして、保健師の専門性を高め、成長してほしいと願っております。

今回、貴重な事例を素材として提供していただいた小林基子さんに深く感謝申し上げます。

私たちは今後もこのような取り組みをとおして、地域看護 CNS の活動・魅力を発信していくとともに、保健師の皆様へ学びの機会を提供していきたいと考えています。

小林 恵子・齋藤 智子・成田 太一・堀田かおり



次年度も、「新任保健師事例検討会」の開催を計画しています。

皆さん、是非ご参加ください。